

売薬の意匠あれこれ <その20> オリンピック

一般社団法人 北多摩薬剤師会会長 平井 有 (ひらい・たもつ)

2020年7月24日より開催の予定だった第32回オリンピック競技大会(2020/東京)は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行のため2021年に延期となりました。名称の“2020”は変わりませんが、確実に実施されるかはCOVID-19との戦いの結果によると思われます。これまでにオリンピックは計5回(夏季3回、冬季2回)中止になっており、いずれも戦争が原因でした。

今号では、過去のオリンピックに関連したコレクションをご紹介します。オリンピックの五輪マークは、近代オリンピック

の父と呼ばれるピエール・ド・クーベルタン男爵(フランス)が考案したものです。5つの輪は、世界五大大陸の連帯を表しており、他にも5つの自然現象(火・水・木・土・砂)やスポーツの5大鉄則(情熱・水分・体力・技術・栄養)という説もあります。

日本でオリンピックを“五輪”と略するのは、昭和7年(1932)のロサンゼルス大会で新聞記者が見出しの文字数制限に苦慮した際、宮本武蔵の「五輪書」からインスピレーションを得たことによるものと言われています。



選手派遣献金協賛セールの横幕と景品の鉛筆(ライオン歯磨き) 布製、縦370mm×横1750mm

昭和31年(1956)、ライオン歯磨(現ライオン)はメルボルンで開催された夏のオリンピックへの選手派遣1,000万円献金記念の協賛セールを実施しました。第一弾では、全国の小中学校を通じて同社の練り歯磨きや歯ブラシの空箱を回収し、その数に応じて学校名でオリンピック募金に献金しました。第二弾では、練り歯磨きおよび歯ブラシ購入時に抽選券と鉛筆を進呈し、さらに抽選で14インチ白黒テレビまたは賞金8万円(特賞/40名)、ラジオ・カメラ・賞金2万円のいずれか(1等/40名)、腕時計・スケート靴・賞金5千円のいずれか(2等/200名)、ドッジボール・バドミントンセット・エキスパンダー等の運動用具の内から1種(3等/2,000名)、同社製品(4等/128,000名)が当たるセールを行い、売り上げの一部を派遣費用に充てたようです。この時、同社は唯一オリンピックの文字と五輪マークをライオン歯磨き・歯ブラシに使用する許可を得ています。



万国旗(武田薬品工業) 紙製、縦82mm×横112mm(国旗1枚の大きさ)

昭和39年(1964)の東京オリンピックを契機に世界中の国々と親睦を深めようという気運が高まり、国際交流が公民の共通認識となっていきました。万国旗はその象徴で、子供用の菓の景品として配られました。



世界地図(伊井功薬房) 紙製、縦255mm×横350mm

昭和39年の東京オリンピックの啓発を兼ねた配置売薬の宣伝ポスターです。ソビエト連邦やビルマ、象牙海岸などが、当時の国名で記されています。



競泳選手玩具(津村順天堂)

紙製、長さ140mm

この玩具は、昭和11年(1936)にナチス体制下で開催されたベルリンオリンピックの200m平泳ぎで、地元のドイツ選手とデッドヒートを繰り広げ、1秒差で勝利し日本人女性初の金メダルを獲得した前畑秀子選手の功績を多分に意識したものと思われます。“前畑ガンバレ! 前畑ガンバレ!”のラジオの実況放送はレコードになりました。

記録カード付 カミソリセット(ジレット)

台紙: 紙製、縦450mm×横230mm

ジレット(Gillette)はシック(Schick)と並ぶ安全剃刀の二大メーカーです。これは昭和39年の東京オリンピックに合わせて「スポーツ大行進セール」と称し、競技記録カードのオマケを付けた記念セットです。カードには、オリンピック記録、昭和35年(1959)のローマ大会記録、日本記録が印刷されており、東京大会の記録が書き込めるようになっています。

